

2025年度 大谷大学自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準5 学生の受け入れ

評価項目①		学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公平、公正に実施していること。		
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》
		前年度	当年度	
評価の視点1	学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定しているか。	○	○	■「入学者受入れの方針（AP）」（以下、「AP」）は、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」（以下、「DP」）及び「教育課程編成・実施の方針（CP）」（以下、「CP」）を踏まえ、各学部並びに大学院人文学研究科修士課程及び博士後期課程でそれぞれ設定し、公表している（資料25-5-1～5【ウェブ】、資料25-5-6）。 ■2024年度に新APの運用を開始した。これは、2023年度から新DPが運用されたことに伴い、新DP・新CPとの関連性やAPの適切性の検証方法等について、2022年度から入学制度委員会で検討を進めたことに起因する。 ■2023年度には、インスティテューショナル・リサーチ室と連携して旧APの検証を行い、その検証結果を基に策定した新APを内部質保証推進責任組織である大学運営会議で審議の上、策定した。 ■入試制度の検討に伴うAPの改訂、検証は毎年行っている。2025年度も、2027年度入試制度の検討に伴い、2026年度に改訂するAPの検証を入学制度委員会で行い、その検証結果を基に内部質保証推進責任組織である大学運営会議で改訂APを審議の上、2026年度に公表する準備を進めている（資料25-5-7、資料25-5-8）。
評価の視点2	学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。	○	○	■2024年度から運用を開始した新APIは、受験生に求める能力、意欲、適性等を次のAP1～4に分類して策定し、大学Webサイト等で公表している。 AP1〔知識・技能〕 AP2〔思考・判断・表現〕 AP3〔主体性・多様性・協働性〕 AP4〔関心・適性〕 ■新APは、各APの項目に対応するDPの項目、各入学制度における各AP項目との関係性、及び「各入学制度のねらい」に応じて、選考方法及び判定項目との関連性を一覧表にして表している（資料25-5-1【ウェブ】）。 ■志願者には、「学部の教育目標（人物養成上の目的）」とあわせて「学科の教育目標（学則）」、「学科の教育目標（解説）」及び「学科が求める学生像」を併記することで志願者が理解しやすいように、明確に公表している（資料25-5-2【ウェブ】）。

評価の視点3	学生の受け入れ方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。	○	○	■入学者選抜を公平・公正に実施するための体制は、各入学試験前に内部質保証推進責任組織である大学運営会議において実施要項を審議の上、決定し、各入学試験を実施している（資料25-5-9）。 ■大学運営会議での審議内容は、入試関係日程、入試実施体制、受験上の配慮者、外国の学校を卒業した受験生などの大学入学資格の確認、その他の必要事項などであり、公平・公正な受験環境を確保することに努めている。 ■入学試験当日の実施は、学長を責任者とする入学試験実施本部を設置し、公平・公正かつ円滑に入学試験を運営する体制を構築している（資料25-5-9）。 ■各入学試験の公平・公正かつ円滑な運営を監督するため、学長が本学教育職員のうちから若干名の総括委員を任命している。各入試における実施規程で規定する総括委員は、入試問題の作成段階から入学試験の実施及び採点にいたる一連のプロセスを統括し、教科間の重複出題等の確認、問題の内容確認、入学試験当日の諸対応の妥当性の判断など、入試過誤の発生を防止する役割も担っている（資料25-5-10）。
評価の視点4	入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。	○	○	■入学試験において特別な配慮を必要とする志願者への対応は、「障がいのある学生の受入れ方針」を策定している（資料25-5-11【ウェブ】）。 ■この方針は、毎年の入試制度自体の検証とあわせて入学制度委員会で検証し、内部質保証推進責任組織である大学運営会議で審議の上、決定している。 ■「障がいのある学生の受入れ方針」の公表は、教授会及び部課長会議（助教へは学内グループウェアで配信）で説明の上、周知して教職員で共有するとともに、大学Webサイトで公表している（資料25-5-11【ウェブ】）。 ■志願者に対しては、入学試験にて配慮を希望する場合、毎年5月から事前相談を受け付ける旨を大学Webサイトや『入試ガイド』等で公表している。なお、大学説明会等でも、受験に際して配慮が必要な場合は個別相談を行う旨を周知している。また、オープンキャンパスでは、プライバシーに配慮し専用フォームを使用して個別相談を受け付けている（資料25-5-12）。 ■事前相談では、「障がいについての予備調査シート（インテークシート）」で希望者と面談している。入学試験時の配慮内容は、大学入学共通テストの配慮内容を原則とし、本学の入学試験制度に合わせた配慮内容を大学運営会議で審議し、実施している（資料25-5-13、資料25-5-14【ウェブ】）。 ■なお、視覚・聴覚に障がいのある志願者も想定し、各入試対策のキャプション付の動画も公開している（資料25-5-15【ウェブ】）。

評価の視点5	すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。	○	○	■入試全般の情報（AP、各入学試験日程・募集人員、選考方法等）とあわせ、昨年度入学試験結果等の統計資料や入学検定料、学生納付金等について、大学Webサイト「入試情報」で公表している（資料25-5-16【ウェブ】）。 ■大学Webサイト「入試情報」は、志願者目線で必要な情報を次の4分類で整理している。 01大谷大学を知る 02大谷大学を体験する 03大谷大学を受験する 04大谷大学に入学する ■大学Webサイトで公表している情報は、別途、『大学案内』及び『入試ガイド』、『入試要項』等の印刷媒体でも情報提供している（資料25-5-17【ウェブ】）。 ■各入学試験における志願者の受験対策には、『入試問題集』で前年度入試問題と正答、配点、出題の意図及び受験生へのアドバイスを掲載し、広く配布している（資料25-5-18【ウェブ】）。 ■『入試問題集』は、2025年度から大学Webサイトでも公表している（資料25-5-18【ウェブ】）。 ■大学院等入試問題で著作権上の理由により公表できない場合は、2025年度より大学Webサイトにて出題の意図等を公表している（資料25-5-19【ウェブ】）。 ■受験に際して配慮が必要な志願者への情報提供は、評価項目①-評価の視点4に記載のとおりである。
--------	-----------------------------	---	---	--

評価項目②		適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。		
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《簡条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》
		前年度	当年度	
評価の視点1	学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。	○	○	■学部・研究科の入学者数や在籍学生数の定員管理は、入学制度委員会で検証し、内部質保証推進責任組織である大学運営会議で審議の上、行っている。 ■学部・学科、研究科・専攻ごとの適切な入学定員・収容定員の設定については、入学制度委員会で検証するとともに、大学運営会議に諮り、学長が決定している（資料25-5-20、資料25-5-8）。 ■大学全体及び各学科の入学者数、在籍学生数と入学定員・収容定員の維持、管理が適切に行われるよう、学長会が全学的な視野に立ち、入学試験制度別合格者数原案を策定している（資料25-5-21）。 ■定員未充足への対応は、入学制度委員会及び大学院運営委員会が中心となって検討して進めている。入学試験制度などの検証・改正などを上程し全学的な視野で大学運営会議にて審議・決定し、対策を講じている（資料25-5-8）。 ■大学院においては、収容定員未充足への対策の一つとして、大学院運営委員会が中心となり、学部・修士課程の接続を強化し、大学院への進学者を増加させることを目的に検討を進めた。その検討結果を受け、大学運営会議では2026年度入学生（学部2023年度入学生）から「大谷大学大学院 学士・修士接続プログラム（5年プログラム）」の導入を決定し、多様な進学者の受け入れに向けて、学部教育との横断的教育環境の構築を進め、定員未充足への対応の一つとする。また、オープンキャンパスでの個別相談ブース設置は、2021年度以降から順次拡大しており、2025年度は計8回（4/27／5/18／6/15／7/26／8/2／8/3／8/24／9/21）設置した。

評価項目③		学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。		
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《簡条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》
		前年度	当年度	
評価の視点1	学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。	○	○	■学生の受け入れに関わる事項は、入学制度委員会が検証し、内部質保証推進責任組織である大学運営会議で定期的に点検・評価している。 ■入学試験制度の検証等は、次年度以降の入学試験制度（案）を策定する過程で入学制度委員会が毎年度に点検・評価している（資料25-5-7）。 ■2024年度は、高大接続事業全般の取組として「入学試験制度」及び「入学前教育プログラム」、並びに「奨学金制度」を入学制度委員会で素案策定し、大学運営会議で検証して定員確保に向けた対策を開始した。 ■2025年度は、さらなる高大接続事業の推進として、志願者の年内出願への動向にさらに沿った「入学試験制度」及び「入学前教育プログラム」を入学制度委員会で素案策定し、大学運営会議で検証して定員確保に向けた対策を講じた（資料25-5-22）。

評価の視点2	点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。	○	■入学制度委員会は、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に向けた効果的な取組について、インスティテューショナル・リサーチ室と連携し、各入学試験制度における学科別の志願者数、合格者数、入学者数、定着率等の統計データを基に検討を進めている。 ■2025年度入学生を対象とした取組は、統計データを基に「入学試験制度」及び「入学前教育プログラム」、並びに「奨学金制度」を開始し、効果的な取組へとつなげるために大学説明会・高校訪問（160校）・オープンキャンパスで積極的に情報提供した。 ■2026年度入学生を対象とした取組は、年内出願への志願者動向にさらに沿った「入学試験制度」及び「入学前教育プログラム」を開始した。さらに効果的な取組へとつなげるため、大学説明会の開催後、高校訪問数は180校（20校増）、オープンキャンパスは11回開催（2回増）と積極的に情報提供するように改善した（資料25-5-2【ウェブ】、資料25-5-23【ウェブ】）。 ■本学における、「入学試験制度」及び「入学前教育プログラム」、並びに「奨学金制度」の詳細は次のとおりである。記載する年度は、入試の実施年度を示している。 （１）入学試験制度 1）総合型選抜入試 ① 名称変更→総合型選抜 ② 実施日→土曜日の1日のみで実施（≠2週連続） 2）公募制推薦入試 i）公募制推薦入試【前期】 ① 専願制（小論文）を新設 ② 専願制（基礎能力試験型）を新設〔2025年度～〕 ③ 専願制と併願制は同時出願可 ii）公募制推薦入試【後期】〔2025年度～〕 ① 専願制（基礎能力試験型／英語外部試験成績利用可）を新設 3）指定校制推薦入学制度 ① 全体成績・特定教科成績の変更 ② ONP→教育学部各コースに2名以内を追加 ③ 対象校調整→仏教系（他宗派）5校増ほか ④ 選考は面接のみとし、小論文作成は入学前教育へ移行〔2025年度～〕 4）一般入試 ① 〔第1期〕3教科型・2教科型に英・数型を新設 ② 英・数型を数理教育専攻として募集開始〔2025年度～〕 ③ 入試特別奨学金「チャレンジ受験」の運営 ④ 〔大学入学共通テスト利用〕に6割合格保証を開始〔2025年度～〕 （２）入学前教育プログラム 1）単位認定型プログラム ① 公募制推薦入試〔専願制〕（小論文）必須で新設 ② ONPへ移行〔2025年度～〕 2）入試特別奨学金「チャレンジ受験（年内入試入学手続者）」 3）大学入学プログラム（基礎学力養成）と学科プログラム（学科専門領域内容）とし全合格者を対象として実施〔2025年度～〕
---------------	--	----------	--

			(3) 奨学金制度 1) 総合型選抜入試 ① 総合型選抜入学者奨学金（真宗・仏教学科） 2) 公募制推薦入試【前期】〔併願制〕（基礎能力試験型） ① 入試特別奨学金 3) 指定校制推薦入学制度 ① 真宗大谷学園大谷高等学校入学者奨学金 ② 真宗大谷派学校連合会加盟高等学校近畿圏外入学者進学支援奨学金 4) 一般入試〔第1期〕 ① 入試特別奨学金（3教科型／2教科型／英・数型） ② 入試特別奨学金「チャレンジ受験（年内入試入学手続者）」 5) 全入試制度対象（卒業時） ① 真宗大谷派学校連合会加盟校教育職員就業奨励金 (4) 大学院人文学研究科の取組 ① 学士・修士接続プログラム（5年プログラム）
--	--	--	--

(3)長所・特色 | 問題点

基準5 学生の受け入れ

1) 長所・特色（あれば） ※成果を含む

No	自己点検・評価結果（長所・特色）			
1	点検項目			
	内容	■特になし		
	さらなる発展 方策（あれば）			
2	点検項目			
	内容	■特になし		
	さらなる発展 方策（あれば）			

2) 問題点・課題（あれば）

No	自己点検・評価結果（課題）			
1	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他（ ）		
2	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他（ ）		